

論壇

社外の人材が監視、意見

日本が進めているコーポレートガバナンスの改革について知っているだろうか。そもそもコーポレートガバナンスについての知識がない、という読者もいるかもしれない。専門的なテーマであるが、これからの日本にとって重要な改革課題だ。

コーポレートとは企業のことである。ガバナンスは統治と訳す。コーポレートガバナンスとは、要するに企業の行動のあり方を統治(管理)する仕組みを工夫することである。企業、とりわけ大企業の経営は、企業関係者だけでなく、

伊藤 元重

学習院大教授(国際経済学)

地域の多くの人に影響を及ぼす。正しい経営が行われるように、外からの監視が必要となる。監視するだけでなく、正しい経営に導くような仕掛けが期待されるのだ。

三菱自動車の排ガスでの情報操作が、同社の経営を直撃している。その結果として、一時は、同社の工場のある岡山県倉敷市水島に住

監査役の導入である。社外の人材に、間違った経営が行われていないか監視してもらおうと同時に、社内とは違う意見を入れてもらうのだ。

ある会議で話題になったが、昔あるワンマン経営者の企業があった。この経営者の趣味は小唄であった。そうしたら、いつのまにか

コーポレートガバナンス改革

む企業関係者やその家族や取引先が大きな影響を受けることが懸念された。地域全体の問題となりかねない。こうしたことが起こらないよう、口頭から間違った経営が行われぬような監視が必要だ。

コーポレートガバナンスの改革の中心にあるのが、社外取締役や

役員全員が小唄をやるようになったという。小唄をやるのが悪いわけではないが、皆がワンマン経営者の方ばかり見て行動するようになったというのだ。結局この企業は、その後無謀な

投資が原因で破綻したそうだ。小唄が原因というわけではないが、

社内にワンマン経営者にはつきりとノーを言える人がいなくなってしまう、経営が暴走してしまったのだから。

間違った経営には「ノー」

コーポレートガバナンスで、最近マスコミを賑わしたのが、セブ&アイ・ホールディングスでの会長の退任劇だ。セブ&アイレブ

を大企業に育てた業界のカリスマと言われた会長が、業績をあげている現役の社長を辞めさせようとした。それに対して、社外取締役がノーを突きつけ、結果的には取締役会で会長の提案が否決される結果となった。それを受けて会長は退陣することになった。

この件について、この会長の行動が正しかったかどうかは分から

ない。ここでそれについて論じたわけではない。ただ、小売業のカリスマと言われた人がノーを突きつけられるということが、注目すべきことであるのだ。企業経営は、常に外からの厳しい目にさらされ、間違った経営をしていると見られたらノーを突きつけられる。これこそがコーポレートガバナンスの重要なポイントである。

企業の行動が間違った方向に走っていないのか。あるいは、逆に保身に走ってばかりで、将来に向けた積極的な投資をしていないのではないか。環境問題への対応や従業員の扱いにおかしなところがないのか。こうした点について、外からの声が届けば、企業の風通しも少しは良くなるのが期待される。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。